

第4回「栗東市土地開発公社経営検討委員会」の会議録

日 時	平成24年9月27日(木) 15:30～17:00
場 所	栗東市庁舎4階 第1委員会室
出席者	委 員...野洲委員長、駒林副委員長、内田委員、大川委員 栗東市...総務部長 財政課：課長、課長補佐 (事務局)公社健全化対策課：課長、課長補佐ほか 栗東市土地開発公社...事務局
会 議 内 容	
<p>1. 開 会</p> <p>2. 会議の公開および会議資料の取扱いについて</p> <p style="padding-left: 20px;">(結果) 会議は公開し、会議資料は傍聴者には会議中のみの閲覧を認める。</p> <p>3. 議事事項</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) <u>栗東市土地開発公社の今後のあり方について</u></p> <p style="padding-left: 40px;">会議では、公社存続の可否について、存続する場合と解散する場合等における先行取得の需要やその代替機能、また財政シミュレーションをもとに債務処理方策等を議論。</p> <p style="padding-left: 40px;">(委員からの意見・質疑)</p> <p style="padding-left: 20px;">・[用地の先行取得について]</p> <p>委 員...公社を解散した場合、今後の事業見通しで緊急の先行取得が生じる可能性は無いのか？</p> <p>事務局...市では、事業全般で絞り込んでいるが、新幹線新駅関連の後継プランにおける街路事業を見込んでいる。</p> <p style="padding-left: 40px;">しかし、これまでのように用地を一定枠持つようなことは避けて、どうしてもという事業は特化して市の基金を使っていくという姿勢が望ましいと考えている。</p> <p>委 員...地価は、未だに下落が続いている。地価の上昇期において先行取得の値打ちがある。この状況では先行取得の必要性は薄い。</p> <p>委 員...今後、先行取得の必要が生じた場合は、確実な事業計画を立てる必要がある。</p>	

・[三セク債を発行した場合の財政シミュレーションについて]

(想定)「三セク債発行額」160億円、「償還期間」30年、「金利」1.5%

委員...中長期財政見通しでは、(財政健全化判断比率で単独事業の起債が制限される)実質公債費比率が、25%に近づく年があり懸念される。

事務局...本来、三セク債は償還期間が基本10年間であるが、市の財政状況から前例にもある30年間をお願いさせていただきたい。

委員...中長期財政見通しでは、基金残高がある。これ以上に基金を取り崩して、償還に充てれば後年に余裕が出てくると考えるが?

事務局...現時点でのシミュレーションでは、これ以上基金を償還財源に使うことは想定していないが、可能かどうか検討していきたい。

委員...三セク債発行での想定利率の1.5%を更に下げられないか、今後の交渉が必要である。

事務局...是非ともご支援いただけるように金融機関へお願いしていきたい。

委員...市の財政規模からして160億円は大きいですが、いずれにしても市が受けることになるので待ってられない。いずれかの方策をもって対処する必要があることは理解した。

委員...保有地の処分により、160億円を少しでも減らしていく努力が必要である。

事務局...保有地は、今後の行政計画と照らし合わせながら、民間処分が可能なものがあれば積極的に処分していきたい。

委員...用地の中には、道路を付けて付加価値を高めてから処分する等の方法も考えられる。

(結果)今回の議論を踏まえて、次回も引き続いて検討していくこととなった。

4.閉会